

オルガノン要約 § 204～215

§ 204 病気や症状の原因は以下の三つ

A) 不規則な生活 B) 医原病 C) 三つのマヤズム

表面的な症状が外的な治療で奪われると必ずマヤズムが発症する。医師がやるべきなのは単に外的症状を消し去ることではなく、マヤズムを治療しようとするところである。

§ 205 ホメオパスは根底にあるマヤズムだけを治療しようとする。単に最終産物の病巣を切除すると病気はより悪化し、危険な状態になることもある。

§ 206 慢性病の根底にはソーラがある。それに性病が加わって複雑化していることもしばしばである。更にアロパシーによる失敗が加わり、ひどい状態になっていることも多い。

§ 207 病が複雑化している時、まずはこれまでにとったアロパシー薬や治療などについて問診する必要がある。それによりどれだけ乱されたかを知るために。

§ 208 次に薬や治療以外に治療を妨げているもの、助けているものを考慮すること。(年齢・職業・食事・家庭・人間関係・感じ方考え方など)

§ 209 第一の処方：

その次に、ホメオパスは患者の症状、特に SRP から症状像を完全に描いてから初めて最初のレメディを選び出す。

§ 210 一面的な病気は全てソーラに属すが、症状が一面的なので治療は困難である。感情・精神的病気もこの種のものである。

治療を成功させるには症状の全体像のなかに、感情・精神の状態をも記入しなければならない。しかしそれは変化するので、分かりづらい。(注) 感情・精神の状態は、病気になると一変し、人が変わったと思うほど正反対になることもある。

§ 211 感情・精神の状態は、患者の固有性を示すため非常に重要だが、隠されていることが多い。

§ 212 レメディのプルービングにおいては必ず感情と精神に変化を起こす。

§ 213 身体症状と精神症状がマッチしたレメディでないと、急性の場合においてさえも治癒は不可能である。(注) 急性病においても精神症状が合っている必要がある。具体例。

§ 214 感情・精神の病気は身体症状と同様にレメディで治療する。

(その治療方法は、身体症状と同じである。)

§ 215 ほとんどすべてのいわゆる精神・感情の病は身体の病に他ならない。なぜなら身体的症状が後退すれば精神的症状が激しくなるから。